

エコアクション21

# 2021年度 環境経営レポート

対象期間 2021年4月1日～2022年3月31日

発行日

2022年5月25日

株式会社 サン電材社

株式会社 **サン電材社**



**TOKAI RIKAI GROUP**

# 株式会社サン電材社 2021年度環境経営レポート 目次

1.環境経営方針	.....	2
2.事業概要	.....	3
3.実施体制		
① 組織図	.....	4
② 役割と責任、権限	.....	5
4.環境経営目標と実績		
① 環境経営目標と実績	.....	6
② 2021年度実績対比および達成状況	.....	9・10
③ 2021年度 評価と要因分析	.....	11
④ 2022年度環境経営目標（単年度）		
1) 全社目標	.....	12
2) 本社目標 および 3) 音羽事務所 目標	.....	13
5.環境経営計画	.....	14
6.中期環境経営目標	.....	15
7.環境改善事例	.....	16
8.法規・法令順守状況	.....	17
9.外部コミュニケーションの記録	.....	18
10.代表者による全体評価と見直し	.....	19

# 株式会社サン電材社 環境経営方針

## ① 環境への取り組み 基本方針

- 1.社会の一員として、環境への取り組みを全社一丸となり進めます。
- 2.法・地域や顧客との約束を守り、さらに自主目標を定め、環境汚染の未然防止を進めます
- 3.環境改善活動および社会貢献活動を全社的・継続的に実施展開します。
- 4.顧客要望対応を充実させ、省エネ・環境配慮の高いものづくりを推進します

## ② 環境への取り組み 行動指針

- 1.環境目標の設定と継続的改善  
当社の環境負荷削減のため、環境目標を設定し、目標達成のため全社で取り組みます。また、継続的な改善を図り、環境にやさしい企業を目指します。
- 2.産業廃棄物の削減とリサイクルの推進  
産業廃棄物の分別の推進やリサイクル意識の向上を図ることでリサイクル率を高め、廃棄物総量の削減を推進します。
- 3.CO2排出量の削減と水資源の節約  
空調や照明などの効率的な運用により電力使用量の削減および、社用車のハイブリッド車輛導入やエコ運転の推進等を通じ、CO2排出量削減を推進します。また、水道等の水量適正化や連続使用の抑制、節水意識の向上をはかり水資源の利用節減を推進します。
- 4.顧客要望対応の充実による省エネ・環境配慮型製品の製造推進  
お客様からの要望を製品に十分に反映させることで、省エネ・環境配慮型の製品を製造・販売することを推進します。
- 5.法令遵守  
環境関連法令、条例、規制を遵守し、社会の一員としての責務を果たします。
- 6.近隣および社会との共存共栄  
環境教育や啓蒙活動などの環境活動を通じ、全社員の環境意識の向上に努め近隣地域ならびに社会との良好な関係を育み、共存共栄に努めます。

制定： 2016年 4月 1日

改定： 2018年 4月 1日

株式会社 サン電材社

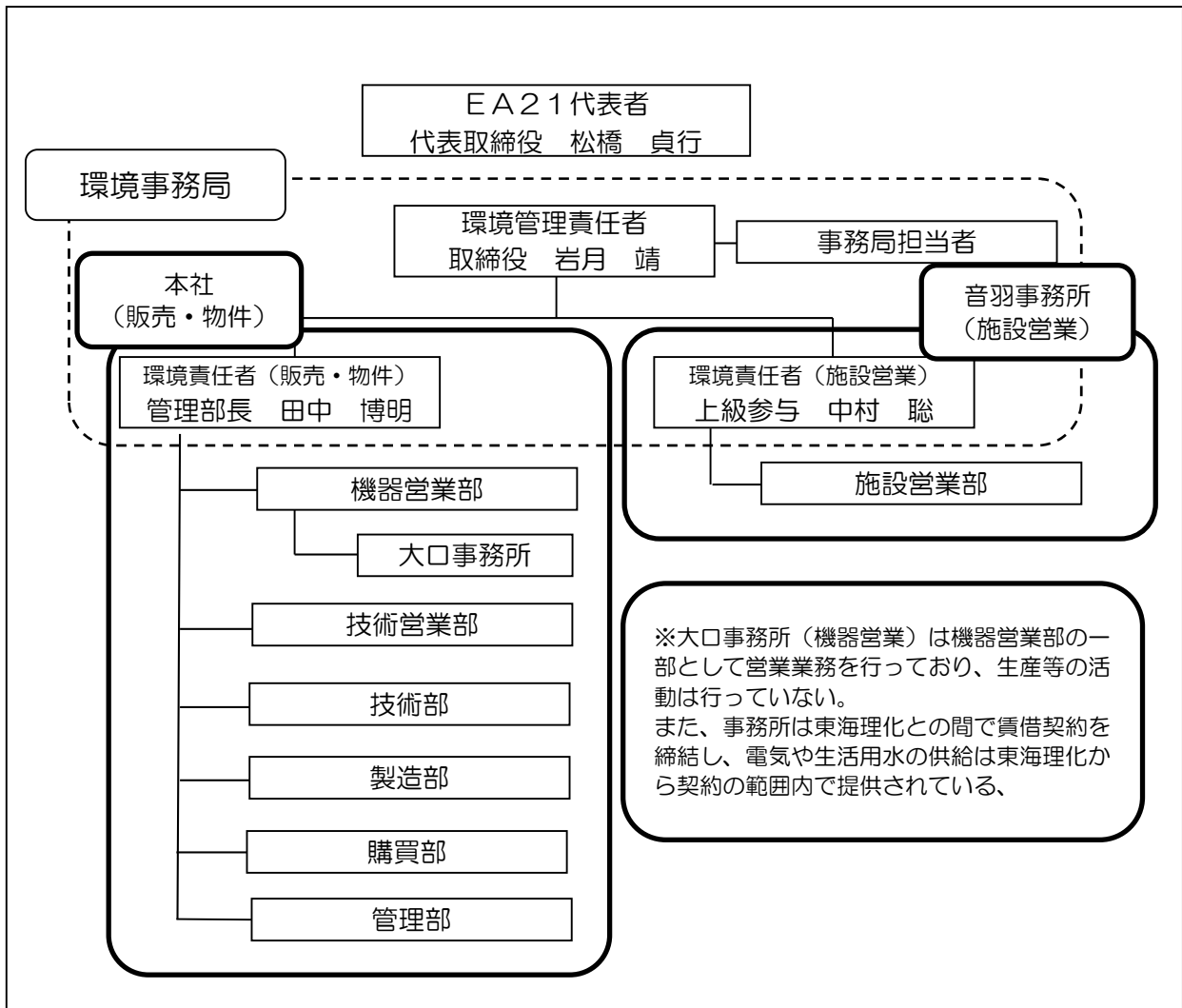
代表取締役 松橋 貞行

# 事業概要

事業者	株式会社 サン電材社
本社所在地	愛知県豊橋市西幸町字浜池331番地7
代表者	代表取締役 松橋 貞行
事業内容	産業用機械（自動機・検査機）及び 試験機の設計・製造・販売・メンテナンス 電機・機械部品の販売 建設工事の営業および施工管理（音羽事務所）
事業拠点	本社工場・事務所 〒441-8113 愛知県豊橋市西幸町字浜池331番地7 TEL：0532-38-5631（代表） FAX：0532-38-5682 事業所延べ面積：5580㎡ 建物面積 4011㎡
	音羽事務所 〒441-0295 愛知県豊川市赤坂町平山1番地 TEL：080-6978-1941（中村） FAX：0533-88-3098 事務所延べ面積：30㎡
事業の規模	事業期間 第49期（2021年4月～2022年3月） 売上高：6,161百万円（内 製作物：3,188百万円）
従業員数	108名（2022年3月31日時点） 内：本社 99名（正社員78名 パート・嘱託21名） 音羽事務所9名（正社員9名）
環境管理責任者	取締役 機器営業部長 岩月 靖 TEL：0532-38-5633 FAX：0532-38-5682 E-mail：y.iwatsuki@sandenzai.co.jp
EA21推進事務局 （連絡先担当者）	管理部 室川 研児 TEL：0532-38-5633 FAX：0532-38-5682 E-mail：k.murokawa@sandenzai.co.jp
対象範囲 （承認・登録範囲）	本社工場・事務所および音羽事務所

# 実施体制

## ① 組織図



作成： 2020年10月30日  
改訂： 2021年6月1日

# 3.実施体制

## ② 役割と責任、権限

	役割・責任・権限
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営に関する統括責任</li> <li>・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等の準備</li> <li>・環境管理責任者を任命</li> <li>・環境経営目標・環境経営計画書を承認</li> <li>・環境経営方針の策定</li> <li>・代表者による全体の評価と見直しを実施</li> <li>・環境経営レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>・環境関連法規等の取りまとめを承認</li> <li>・環境経営目標・環境経営計画書を確認</li> <li>・環境経営の取組結果を代表者へ報告</li> <li>・環境経営方針の全従業員への周知</li> <li>・環境経営レポートの確認</li> <li>・審査結果及び是正措置等の代表者への報告</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境管理責任者の補佐、E A 2 1 の推進</li> <li>・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施</li> <li>・環境経営目標・環境経営計画書原案の作成</li> <li>・環境経営の実績集計</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表の作成</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施</li> <li>・環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>・環境経営レポートの作成、公開</li> <li>・環境重要設備の手順書作成及び運用管理</li> <li>・特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト、訓練の実施、記録の作成</li> </ul>
環境責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点における環境経営システムの実施</li> <li>・拠点における環境経営方針の周知</li> <li>・拠点の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>・拠点に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>・拠点の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

# 4.環境経営目標と実績

## ① 環境経営目標と実績

### (1) 全社合計

環境経営目標 項目		単位	2019年度	2020年度	2021年度	
① 二酸化炭素 総排出量	電力消費によるもの	kg-CO <sub>2</sub>	156,667	136,433	158,004	
	化石燃料消費によるもの		ガソリン	94,627	77,518	80,439
			軽油	9,651	7,630	7,976
	排出量合計		260,945	221,581	246,419	

#### ・二酸化炭素排出量 排出計数

項目	排出計数
電力消費によるもの※	0.527kg-CO <sub>2</sub> /kWh
ガソリンによるもの	2.320kg-CO <sub>2</sub> /L
軽油によるもの	2.580kg-CO <sub>2</sub> /L

※電力量に係るCO<sub>2</sub>排出計数…環境省「電気事業者別排出係数 令和元年度」公表値のうち、

鈴与電力株式会社・調整後排出計数を適用

環境経営目標 項目		単位	2019年度	2020年度	2021年度
② 一般廃棄物排出量		トン	2.07	1.825	1.54
③ 産業廃棄物排出量	中間処理廃棄物	トン	10.6	7.7	10.2
④ 水道（上水）使用量		m <sup>3</sup>	500	472	546
⑤ 化学物質の適正管理	指定数量倍数	倍数	0.189	0.189	0.191
	化学物質状況確認	回	12	12	12
⑥ 省エネ型製品設計製造	QCD活動回数	回	12	12	12

# 4.環境経営目標と実績

## ① 環境経営目標と実績

### (2) 本社

環境経営目標 項目		単位	2019年度	2020年度	2021年度	
① 二酸化炭素 総排出量	電力消費によるもの	kg-CO <sub>2</sub>	156,667	136,433	158,004	
	化石燃料消費によるもの		ガソリン	94,627	72,059	68,527
			軽油	9,651	7,630	7,976
	排出量合計		260,945	216,122	234,507	

#### ・二酸化炭素排出量 排出計数

項目	排出計数
電力消費によるもの※	0.527kg-CO <sub>2</sub> /kWh
ガソリンによるもの	2.320kg-CO <sub>2</sub> /L
軽油によるもの	2.580kg-CO <sub>2</sub> /L

※電力量に係るCO<sub>2</sub>排出計数…環境省「電気事業者別排出係数 令和元年度」公表値のうち、

鈴与電力株式会社・調整後排出計数を適用

環境経営目標 項目		単位	2019年度	2020年度	2021年度
② 一般廃棄物排出量		トン	2.07	1.71	1.44
③ 産業廃棄物排出量	中間処理廃棄物	トン	10.6	7.7	10.2
④ 水道（上水）使用量		m <sup>3</sup>	500	472	546
⑤ 化学物質の適正管理	指定数量倍数	倍数	0.189	0.189	0.191
	化学物質状況確認	回	12	12	12
⑥ 省エネ型製品設計製造	QCD活動回数	回	12	12	12



## 4.環境経営目標と実績

### ① 環境経営目標と実績

#### (3) 音羽事務所

環境経営目標 項目			単位	2020年度	2021年度
① 二酸化炭素 総排出量	化石燃料消費に よるもの	ガソリン	kg-CO2	5,459	11,912

・二酸化炭素排出量 排出計数

項目	排出計数
ガソリンによるもの	2.320kg-CO2/L

環境経営目標 項目		単位	2020年度	2021年度
② 一般廃棄物排出量		トン	0.12	0.1

※音羽事務所は2020年9月より運用を開始した。

そのため、2020年度は2020年9月～2021年3月までの6か月間を  
集計した結果になる。

## 4.環境経営目標と実績

### ② 2021年度目標実績対比 および達成状況

#### (1) 全社

環境経営目標 項目		単位	目標	実績	対目標比	達成	
① 二酸化炭素 総排出量	電力消費によるもの	kg-CO <sub>2</sub>	121,000	158,004	130.6%	×	
	化石燃料消費に よるもの		ガソリン	102,309	80,439	78.6%	○
			軽油	10,625	7,976	75.1%	○
			合計	112,934	88,415	78.3%	○
	合計		233,934	246,419	105.3%	△	

#### ・二酸化炭素排出計数

電力	0.527-CO <sub>2</sub> /kWh	※電力量に係るCO <sub>2</sub> 排出計数…環境省「電気事業者別排出係数 令和元年度」 公表値のうち、鈴与電力株式会社・調整後排出計数を適用
ガソリン	2.32kg-CO <sub>2</sub> /L	
軽油	2.58kg-CO <sub>2</sub> /L	

環境経営目標 項目		単位	目標	実績	対目標比	達成	
②	一般廃棄物排出量	トン	1.8	1.54	85.6%	○	
③	産業廃棄物排出量	トン	9.7	10.2	105.6%	△	
④	水道（上水）使用量	m <sup>3</sup>	530	546	103.0%	△	
⑤	化学物質の適正管理	指定数量倍数	倍数	0.2未満	0.16	—	○
		化学物質状況確認	回	12	12	—	○
⑥	省エネ型製品設計製造	QCD活動回数	回	12	12	—	○

※達成評価 …… ○：達成 △：対目標+10%以内 ×：未達成（対目標+10%超）

## 4.環境負荷 環境経営目標と実績

### ② 2021年度目標実績対比 および達成状況 (2) 本社

環境経営目標 項目			単位	目標	実績	対目標比	達成
① 二酸化炭素 総排出量	電力消費によるもの		kg-CO <sub>2</sub>	121,000	158,004	130.6%	×
	化石燃料消費に よるもの	ガソリン		88,764	68,525	77.2%	○
		軽油		10,625	7,976	75.1%	○
	合計			220,389	234,505	106.4%	△

#### ・二酸化炭素排出計数

電力	0.527-CO <sub>2</sub> /kWh	※電力量に係るCO <sub>2</sub> 排出計数…環境省「電気事業者別排出係数 令和元年度」 公表値のうち、鈴与電力株式会社・調整後排出計数を適用
ガソリン	2.32kg-CO <sub>2</sub> /L	
軽油	2.58kg-CO <sub>2</sub> /L	

環境経営目標 項目			単位	目標	実績	対目標比	達成
② 一般廃棄物排出量			トン	1.50	1.48	98.7%	○
③ 産業廃棄物排出量			トン	9.7	10.2	105.7%	△
④ 水道(上水)使用量			m <sup>3</sup>	530	546	103.0%	△
⑤ 化学物質の適正管理	指定数量倍数	倍数	0.2未満	0.16	—	○	
	化学物質状況確認	回	12	12	—	○	
⑥ 省エネ型製品設計製造	QCD活動回数	回	12	12	—	○	

### (3) 音羽事務所 (2020年9月～2021年3月)

環境経営目標 項目			単位	目標	実績	対目標比	達成
① 二酸化炭素 総排出量	化石燃料消費に よるもの	ガソリン	kg-CO <sub>2</sub>	13,545	11,914	88.0%	○

#### ・二酸化炭素排出量 排出計数

項目	排出計数
ガソリン排出量合計	2.320kg-CO <sub>2</sub> /L

環境経営目標 項目			単位	目標	実績	対目標比	達成
② 一般廃棄物の排出量			トン	0.3	0.1	33.3%	○

※達成評価 …… ○：達成 △：対目標+10%以内 ×：未達成(対目標+10%超)

## 4.環境経営目標と実績

### ③ 2021年度 評価と要因分析

#### 1) 2020年度からの変化点

項目	詳細
コロナ禍下での売上回復	売上が+1,411百万回復し、稼働が増加した。
研究開発設備の廃却	過去研究開発した設備を廃却。リサイクル不可物件のため廃棄物増加。
空調設備の更新	1階既存工場エリアおよび1階加工室の空調設備を更新した。

#### 2) 2021年度環境経営計画と活動

項目	環境経営計画と活動	
二酸化炭素 排出原単位 削減	電力	室温パトロール継続実施・1階空調更新（工場および加工室エリア）
	ガソリン	移動コスト削減（東海理化本社に事務所スペース確保）・HV活用最適化
	軽油	エコドライブの推進・啓蒙（アイドリングストップ等）
一般廃棄物排出量維持抑制	古紙リサイクル活動の推進（リサイクル排出種類増など）	
産業廃棄物排出抑制	混合廃棄物のリサイクル推進・廃プラスチック資源化の働きかけ	
節水	節水意識の啓蒙・自動水洗器の更新	
化学物質の適正管理	化学物質の最大保管量指定・定期見直し	
省エネ型製品設計製造	技術関連会議でのOCD活動による顧客要望の充実	

#### 3) 評価と要因分析

環境経営目標	項目	対目標	達成	要因
① 二酸化炭素 排出量	電力	117.9%	×	過度の目標設定・稼働増による電力使用増
	化石燃料	78.3%	○	リモート会議実施等で車輛移動減少
② 一般廃棄物排出量		85.6%	○	古紙リサイクル推進による可燃物排出減少
③ 産業廃棄物排出量		105.6%	△	廃棄物のリサイクル分別推進による
④ 水道（上水）使用量		103.0%	△	手洗水量調整・節水意識向上
⑤ 化学物質 適正管理	指定数量倍数	—	○	化学物質数量管理が適切に 実施されている
	化学物質状況確認	—	○	
⑥ 省エネ型製品設計製造	QCD活動回数	—	○	QCD活動の適切な推進による

※達成評価 …… ○：達成 △：対目標+10%以内 ×：未達成（対目標+10%超）

#### 4) 是正

##### (1) 二酸化炭素排出量

要因	目標値を過度に設定した。稼働増による電力量増加を折り込めなかった。
是正	稼働増でも達成が可能かつ実効性のある目標値を設定する。

##### (2) 産業廃棄物排出量

要因	工場内2S活動による産業廃棄物排出量を目標値に折り込めなかった。 リサイクル化できない性質の廃棄物が大量に排出された
是正	各部門と連携し、2S活動等による産廃物増加を目算に入れる。 なるべくリサイクル化できるよう、スクラップ等を受け入れる業者を選定する。

##### (3) 水道（上水）使用量

要因	外壁塗装の下処理作業にかかる水道使用を事前に折り込めなかった。
是正	施設・設備にかかる大きな変化点については、その工程を事前に十分ヒアリングする。

# 4.環境経営目標と実績

【2022年度からの目標設定変化点】

## 1.数値目標と定性目標の設定

数値評価できるものは数値で目標を設定し、数値評価が妥当でないものは定性的目標とする。

2.産業廃棄物のうち、廃プラスチックとその他の産業廃棄物の目標を分化し表示することとした。

## ④ 2022年度目標（単年度）

### 1) 全社目標

#### ・数値目標

環境経営目標 項目		単位	目標	目標基準	
① 二酸化炭素総排出量※	電力消費によるもの	kg-CO <sub>2</sub>	136,263	電力使用量 前年比1%削減 電力量のCO <sub>2</sub> 排出量換算値	
	化石燃料消費によるもの		ガソリン	99,650	対2013年度排出量▲17% (2025年度CO <sub>2</sub> 排出量▲25%目標)
			軽油	10,518	
			合計	110,168	
	総排出量合計		246,431	—	
② 産業廃棄物の排出抑制	廃プラスチック	トン	2.50	対2018年度比▲4% (2018年度より毎年▲1%) ※2018年度排出量：2.60 t	
	その他の産業廃棄物	トン	7.06	対2018年度比▲4% (2018年度より毎年▲1%) ※2018年度排出量：7.36 t	

※二酸化炭素排出計数 電力：0.459kg-CO<sub>2</sub>/kWh ガソリン：2.32kg-CO<sub>2</sub>/L 軽油：2.58kg-CO<sub>2</sub>/L

#### ・定性目標

活動項目	詳細	※参考 数値目標
古紙・ダンボールのリサイクル推進・継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>古紙、ダンボール分別活動を継続（分別状況の定期的確認・情報展開）</li> <li>紙の利用量削減 … 申請等の電子化</li> </ul>	可燃ごみ（一般廃棄物）排出量1.79 t/年間 （2021年度実績：1.58 t） 古紙リサイクル収集量：9.29 t/年
水道使用量の維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>節水呼びかけ等の啓蒙活動を継続</li> </ul>	使用量530m <sup>3</sup> /年間 （2021年度実績：546m <sup>3</sup> ） ※2017～2021年度利用量平均：533.2m <sup>3</sup>
危険物・化学物質の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポット暖房の電気ヒーター活用（灯油廃止）</li> <li>在庫数量制限の維持、発注点管理による過剰在庫抑制</li> <li>「化学物質棚卸（年二回）」</li> </ul>	灯油使用量：0/年間 指定数量倍数：0.2未満 （2021年度実績：0.159） 定期確認の実施
顧客要望対応の充実による省エネ・環境配慮・顧客満足度の高いものづくりの推進	技術・製造関連会議を通じたQCD活動 による顧客満足度の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>物件進捗会議、技術製造会議の 定例開催と会議内容のフィードバック</li> <li>顧客要望に基づく製造を通じた環境への貢献（省人化、省エネ化など）。</li> </ul> ※数値評価が難しい目標のため、日々の経営（製造）活動を通じ達成を目指す。	

# 4.環境負荷 環境経営目標と実績

## ④ 2022年度目標（単年度）

### 2) 本社

#### ・数値目標

環境経営目標 項目		単位	目標	
① 二酸化炭素 総排出量※	電力消費によるもの	kg-CO <sub>2</sub>	136,263	
	化石燃料消費によるもの		ガソリン	85,355
			軽油	10,518
			合計	95,873
	総排出量合計		232,136	
② 産業廃棄物の 排出抑制	廃プラスチック	トン	2.50	
	その他の産業廃棄物		7.06	

#### ・定性目標

活動項目	詳細
古紙・ダンボールの リサイクル推進・継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>古紙、ダンボール分別活動を継続（分別状況の定期的確認・情報展開）</li> <li>紙の利用量削減 … 申請等の電子化</li> </ul>
水道使用量の維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>節水呼びかけ等の啓蒙活動を継続</li> </ul>
危険物・化学物質の 適正管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポット暖房の電気ヒーター活用（灯油利用の廃止）</li> <li>指定数量倍数の維持（0.2未満） …… 在庫数量制限の維持、発注点管理による過剰在庫抑制</li> <li>管理状況の定期的確認（現地確認および「化学物質棚卸（年二回）」実施）</li> </ul>
顧客要望対応の充実による 省エネ・環境配慮・顧客満 足度の高いものづくりの推 進	技術・製造関連会議を通じたQCD活動による顧客満足度の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>物件進捗会議、技術製造会議の定例開催と会議内容のフィードバック</li> <li>顧客要望に基づく省人化、省エネ化の製造を通じた環境への貢献</li> </ul>

### 3) 音羽事務所（2020年10月より適用）

#### ・数値目標

環境経営目標 項目	単位	目標
① 二酸化炭素総排出量※	ガソリン kg-CO <sub>2</sub>	14,295

#### ・定性目標

活動項目	詳細
古紙・ダンボールの リサイクル推進・継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>古紙、ダンボール分別活動を継続（分別状況の定期的確認・情報展開）</li> <li>紙の利用量削減 … 申請等の電子化</li> </ul>
顧客要望対応の充実による 省エネ・環境配慮・顧客満 足度の高いものづくりの推 進	技術・製造関連会議を通じたQCD活動による顧客満足度の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>物件進捗会議、技術製造会議の定例開催と会議内容のフィードバック</li> <li>顧客要望に基づく省人化、省エネ化の製造を通じた環境への貢献</li> </ul>

※二酸化炭素排出計数

電力：0.459kg-CO<sub>2</sub>/kWh ガソリン：2.32kg-CO<sub>2</sub>/L 軽油：2.58kg-CO<sub>2</sub>/L

## 5.環境経営計画

項目		計画の内容	責任者	日程
二酸化炭素 排出量削減	電力	室温パトロール継続実施	管理部 (田中・岩月)	2023/3/31 継続活動
		空調更新 4階設計室および営業室(2022年5月) 3階生産室および会議室・食堂等(2022年11月)	管理部 (田中・岩月)	2022/11/30
	ガソリン ・軽油	東海理化本社に事務所スペース確保 (移動コスト削減)	田中・岩月	2023/3/31 継続活動
		利用距離に応じたHV車輛配車 (HV活用最適化)	田中・岩月	2023/3/31 継続活動
産業廃棄物 排出抑制	廃プラスチック	緩衝材(エアクッション等)の再利用推進	田中・岩月	2023/3/31 継続活動
	その他廃棄物	混合廃棄物のリサイクル推進 ・スクラップ(古い機材・事務機等)引取可能業者選定 ・資源(金属など)分別の推進	田中・岩月	2023/3/31 継続活動
一般廃棄物 排出量維持抑制		古紙リサイクル活動の推進 (リサイクル排出種類増 など)	田中・岩月	2023/3/31 継続活動
節水		節水の啓蒙(手洗い等適切な範囲内での水道使用)	田中・岩月	2023/3/31 継続活動
化学物質の 適正管理		化学物質 仕入(保管)量の上限定・かんぱん等を利用した発注点管理	関川	2023/3/31 継続活動
		化学物資棚卸の定期的実施と結果に基づく上限数量の見なおし(2回/年)	関川	2023/3/31 継続活動
顧客要望対応の充実による省エネ・環境配慮・顧客満足度の高いものづくりの推進		技術・製造関連会議を通じたQCD活動による顧客満足度の向上 ・物件進捗会議、技術製造会議の 定例開催と会議内容のフィードバック ・顧客要望に基づく製造を通じた環境への貢献(省人化、省エネ化など)。	鈴木(昭)・小林	2023/3/31 継続活動

# 6.中期環境経営目標（2025年度まで）

## 1) 数値目標

環境経営目標 項目		単位	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
① 二酸化炭素 総排出量	電力消費	kg-CO <sub>2</sub>	136,263	134,900	133,551	132,215	
	化石 燃料		ガソリン	99,650	98,653	97,666	96,689
			軽油	10,518	10,412	10,307	10,204
			化石燃料計	110,168	109,065	107,973	106,893
	総排出量合計		246,431	243,965	241,524	239,108	
② 産業廃棄物の 排出量削減	廃プラスチック	トン	2.50	2.48	2.45	2.43	
	その他の廃棄物		7.06	6.99	6.92	6.85	

【中期目標の策定について】

環境経営目標 項目	策定基準	
① 二酸化炭素 総排出量の 削減	電力	電力使用量 前年▲1%
	ガソリン	車両（社有車）ガソリン使用 前年▲1%
	軽油	車両（トラック）軽油使用 前年▲1%

## 2) 定性目標

・定性目標項目については、活動内容を継続的に実施する。

目標	詳細
古紙・ダンボールの リサイクル推進・継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>古紙、ダンボール分別活動を継続（分別状況の定期的確認・情報展開）</li> <li>紙の利用量削減 … 社内申請申請等の電子化推進 ワークフロー等の活用・勤怠管理の電子化 等</li> </ul>
水道使用量の維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>節水呼びかけ等の啓蒙活動を継続</li> <li>530m<sup>3</sup>/年間の維持を目指す（※2017～2021年度利用量平均：533.2m<sup>3</sup>未満）</li> </ul>
危険物・化学物質 の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポット暖房の灯油使用廃止：セラミックヒーター（電気）等の活用</li> <li>過剰在庫の抑制：在庫数量管理の継続・かんばん等利用した発注点管理</li> <li>指定数量倍数 0.2未満での在庫維持：化学物質棚卸の実施（年二回）</li> </ul>
顧客要望対応の充実 による省エネ・環境 配慮・顧客満足度の 高いものづくりの推 進	技術・製造関連会議を通じたQCD活動による顧客満足度の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>物件進捗会議、技術製造会議の 定例開催と会議内容のフィードバック</li> <li>顧客要望に基づく製造を通じた環境への貢献（省人化、省エネ化など）。</li> </ul> ※数値評価が難しい目標のため、日々の経営（製造）活動を通じ達成を目指す。



## 7.環境改善事例

番号	取り組み	事例写真	詳細
1	古紙リサイクルの 推進・拡大 (継続活動)		<p>古紙リサイクルの排出範囲を拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな紙ごみもリサイクル化</li> <li>・シュレッダーごみのリサイクル排出</li> </ul> <p>一般廃棄物として排出していた紙ごみをリサイクル化することで、一般廃棄物排出量の減少につながりました。</p>
2	空調運転の最適化 (継続活動)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一日2回、事業場の室温および空調の設定温度を確認。 夏季室温28℃・冬季室温20℃になるよう調整しています。</li> </ul> <p>(2019年度に引き続き活動)</p>
3	空調機器の更新		<p>現社屋設立時(2007年)に設置した空調機器の経年劣化による効率低下解消のため空調機器を更新しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年1月：1階工場および加工室 →省エネ型空調採用による電力使用の改善が期待されます。</li> </ul>
4	汐入干潟清掃活動への 継続参加		<p>豊橋市主催の「汐入干潟クリーンアップ大作戦」に昨年に引き続き参加。三河湾奥部にのこる干潟に流れ着くプラスチック等のごみを清掃しました。</p> <p>(2018年度より継続参加)</p>

# 8.法規・法令順守状況

## ・主な法規・法令順守状況

当社に適用される環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

法令・法規に関し関連する各機関から指摘をうけたことは3年間ありませんでした。

確認日 2022年3月31日  
 確認者 環境管理責任者 岩月 靖

法規・法令	条文	規程	遵守内容	判定	状況
騒音規制法	法4・5	都道府県知事が定める基準	騒音規制基準の順守	○	騒音状況：全時間帯で規制値内
振動規制法	法5	都道府県知事が定める基準	振動規制基準の順守	○	振動状況：全時間帯で規制値内
フロン排出抑制法	法16	告示2-1	管理第一種特定製品の簡易点検及び専門点検	○	保守業者による年次点検および簡易点検（外観検査）実施
	法16	告示2-2	一定規模以上の管理第一種特定製品の定期点検	○	保守業者による年次点検実施
	法16	告示4	管理第一種特定製品の点検及び整備に係る記録等に関する事項	○	製品毎に点検記録簿整備 点検時毎、点検記録記載
浄化槽法	法8・9・10	規2・3・6	浄化槽の保守点検及び清掃	○	清掃（年一回）2021年7月 点検（年4回）実施
	法11	規9	法定検査の受検	○	2021年10月受検
廃棄物処理法	法12	規8	廃棄物管理および処理委託関連	○	法逸脱なし。 周辺住民からの苦情なし。
	法12-3-1・6	—	マニフェスト交付義務および交付一覧提出	○	廃棄物委託の度にマニフェスト交付。 交付一覧表を2022年4月提出
労働安全衛生法	法11・12	安衛則4・7・16	安全管理者・衛生管理者の選任	○	各1名ずつ選任
	法16	安衛則16 有機則16	作業責任者の専任（有機溶剤）	○	1名選任
消防法	法9-3	—	指定数量未満の危険物の貯蔵・取扱	○	指定数量1/5未満を維持している
毒物及び劇物取締法	法11	—	対象薬品の貯蔵・盗難紛失対策	○	施錠管理・数量管理を実施
廃棄物の適正処理促進条例（愛知県条例）	条例7-1	規3	委託契約業者の定期的な確認	○	各社年一回実施している。

# 9.外部コミュニケーションの記録

## I.外部からの苦情の受付状況

2022年4月1日～2023年3月31日における周辺住民および外部機関からの苦情はありませんでした。

## II.利害関係者との訴訟・紛争等

2022年4月1日～2023年3月31日において当社の利害関係者との間に訴訟や紛争等の発生はありませんでした。

確認日 2022年4月1日

確認者 環境管理責任者 岩月 靖

---

# 10.代表者による全体評価と見直し

2021年度は前年度に引き続きエコアクション21の「2017年版ガイドライン」が適用され、経営における課題とチャンス認識した環境経営目標に基づき活動を進めてまいりました。

## I.全体評価

### ①環境負荷低減

#### 1) 二酸化炭素排出量

二酸化炭素総排出量については、目標に対し105.3%と目標を超過いたしました。会社業況が回復した反面電力消費量も前年より大きく増加し、総排出量の目標を過度に低く設定したこともあり、目標に対し130.6%と大きく増加いたしました。

化石燃料にかかる二酸化炭素排出量については、リモート会議の体制整備や大口顧客との営業連絡先設置など移動機会低減のための施策が定着化し、目標に比べ78.3%減少いたしました。

#### 2) 廃棄物排出量

一般廃棄物については、古紙・ダンボール・シュレッダー紙の資源化活動が奏功し、可燃物の排出量が年間1.54 tまで減少いたしました。

産業廃棄物については、過去に産官学で開発した開発装置が、契約の関係で有資源化できず1 t近い排出重量増となったことから、目標に対し0.5 t増となりました。

#### 3) 節水

水使用量については、工場等の壁面劣化対策のための塗装工事の際、工程前の洗浄作業で水を多量に使用したことから、目標に対し12m<sup>3</sup>使用増となりました。

### ②顧客要望対応

「経営における課題とチャンス」で認識した「顧客要望対応」につきましては、技術・製造部門の全体会合から各受注案件に関する個別打ち合わせに至るまで、顧客要望に基づいた省力化・省エネルギー化の検討を実施することで、顧客満足度の向上に努めております。

### ③法規・法令順守およびコミュニケーション

環境法令違反や環境ヒヤリハット、近隣住民等からの環境に関する苦情はありませんでした。

## II.見直しと総括

2021年度は事業活動のコロナ禍からの回復が原因で目標未達の項目が多くなりました。

二酸化炭素排出量の目標については、策定時より目標達成が疑問視されるほど過度に低く設定したことが、大幅な目標未達につながりました。

今後は実現可能な目標を設定し、着実に改善を実行したいと思っております。

また、本来数値目標で評価することが適切でない環境経営活動も数値目標を設定しておりかえって活動の成果が評価しにくい状態となっております。今後は定性目標が適切な活動は定性目標を設定し、その中身を検証したく考えております。

環境経営方針については、2018年4月1日改定分について検討いたしましたところ、改定変更の必要なしと判断いたしました。実施体制につきましても検討の結果、変更の必要はございません。

環境経営目標については、目標の達成が可能になるよう評価レベル、評価方法および環境経営計画の見直しを行うよう環境事務局へ指示いたしました。

コロナウィルス感染症の流行状況など景気動向への不確定要素が大きい中、引き続き経営資源の最適な運用と環境配慮型の経営を通じ、顧客要望に全力で対応することで景気変動の影響を好循環につなげるべく活動してまいります。

2022年 5月 25日

株式会社 サン電材社

代表取締役 松橋 貞行